

日本胸部外科学会設立当時の思い出

長 石 忠 三

日本胸部外科学会設立のきっかけとなったのは、昭和23年5月1日から3日まで新潟市で開かれた第48回日本外科学会総会（中田瑞穂会長）を機会に、最新医学社の松原習吉氏の肝入りで、同市で開かれた肺結核外科座談会である。

5月2日の夕べ、学会終了後に同地の鍋茶屋で開かれたこの座談会に集ったのは、青柳安誠、河合直次、宮本忍、長石忠三、篠井金吾、鈴木千賀志、武田義章、卜部美代志、横田浩吉（アルファベット順、敬称略）の9名であった。

この日の会合は日本胸部外科学会設立のきっかけとなった記念すべきものであるが、肺外科に関する全国的な研究会を作ろうとの考え方は、関東では昭和22年1月に発足した結核談話会で、関西では昭和23年2月に発足した結核外科談話会で、すでに醸成されていて新潟での前記の会合の頃には、機は十分熟していたのである。その証拠には、東西協力して全国的な研究会を作ってはどうかとの御提案が青柳安誠京大教授（のちに名誉教授）からなされた時には、出席者一同双手を挙げての大賛成で、かねてから互いの心にあった懸案が一気に解決に向ったの感があり、これを機会にあとはトントン拍子に事が運び、同年秋には名前は胸部外科研究会であったが、事実上の日本胸部外科学会が発足している。その間の消息は、のちに日本胸部外科学会雑誌1巻、4号、205頁（昭和28年10月）に東大福田保教授（のちに名誉教授）により「胸部外科学会の成り立ち」と題して書かれており、また、同誌同巻号、206～7頁（昭和28年10月）に京大青柳安誠教授（のちに名誉教授）により「日本胸部外科学会設立の前後」と題し、遠い将来を慮って書き残されている。前者は、胸部外科学会設立当時の背景を、後者はその前後のいきさつを物語って余すところがない。

ともあれ、以上をきっかけとして、昭和23年11月3日に第1回胸部外科研究会が発足している。会場は東大内科講堂で、当時の肝入り役ないし司会役は東大福田保教授であった。

その前日、文化会館で準備会が開かれ、その席上で、すでに一応それと決っていた肺外科研究会という名称では、範囲が狭すぎるとの意見が出て、翌日の会合では胸部外科研究会として発足することに変更され、その第1回会長に東大大概菊男教授（のちに名誉教授）が、当日の司会役に東大福田保教授が推薦された。この会合には東大都築正男教授や慶大前田和三郎教授（ともにのちに名誉教授）も出席されている。

第2回は昭和24年10月16、17両日に青柳安誠会長の下に京都で、第3回は昭和25年10月29、30両日に河合直次会長の下に千葉で開かれ、この回から会名が日本胸部外科学会へと改称されている。

かくして東西協力して全国的な学会が作られたので、最初これを作ることを目的として組織された関西の結核外科談話会は地方的な結核外科研究会として残す方針に変更された。この研究会は春秋2回長年にわたって開かれていたが、のちに胸部外科研究会と改称され、さらに年を経て現在の日本胸部外科学会関西地方会として発展的に解消している。

なお、日本胸部外科学会の設立と同年、すなわち昭和23年には、南江堂から雑誌「胸部外科」が創刊されている。昭和28年に日本胸部外科学会雑誌が発刊されるまで5カ年の長きにわたって事実上学会機関誌の役割を果たした点で特記すべきものである。（京都大学名誉教授）